

岩藤町の歴史と「お天王まつり」

○ 岩藤町の歴史

江戸時代の初期（西暦1600年頃）に岩崎より志水、本郷より福岡の先祖が現在の常夜灯の周辺に移住、―――岩作（ヤサキ 現在の長久手市）より倉地、水野、加藤の祖先が移住した。そして尾張藩の助けを受けて、新池を作る。当時、上原7戸、下原6戸であった。

（常夜灯の周辺；「岩藤南」交差点の南東） 「村誌」享保戌年之記 より 1730年江戸中期



- ・1871年（明治4年）岩崎村より独立して、**岩藤新田**ができた。
- ・1876年（明治9年）**岩藤神明社**が造営された。そして平成12年現在の社の形体に改築。

1850年頃（江戸末期）にこの辺りは天王浦と呼ばれていた。
須佐之男社があったと思われる。
（サノミコト）

○ 天王まつりの歴史

「お天王まつり」は初夏の田植えを終えた農民達が安らぎと暑さはらいを兼ねて、夏まつりとして江戸時代末期（1850年頃）より行われたものと思われる。そして明治20年代に神明社を改築したときに、併せて「山車」を造営したと推測される。

当時は農耕社会で、雨水は何よりの恵みでした。まつりは神様（天王社）に雨乞いをする行事でした後に無病息災（むびょうそくさい）・家内安全をあわせて願う行事＝祭として、発展した。

現在の「山車」の原形の棟木（むなぎ）に「**明治24年8月**」（1891年）と印されている。原形の「山車」が引きまわされたのは昭和12年（1937年）に太平洋戦争が始まり、中断されるまで46年間つづいた。そして昭和54年に昔の公会堂が改築の為に解体された際に、山車の部材が見つかり、昭和56年（1981年）に有志により山車を復元、祭りが復活され、本年で44年目を迎える。現在の「**提灯山車**」（チョウチンダシ）の歴史は**134年**を数える。

昭和63年には天王祭実行委員会が組織され、祭りの管理・運営を行い、費用は区内外の個人及び企業の厚志に支えられています。また、平成21年3月に「**岩藤天王祭山車**」として、日進市の有形民俗文化財の指定を受けた。平成25年度事業として文化庁の助成を受け、山車本体の大修理を完了しました。

<参考>

- | | | |
|--------|---------------|-------------------------|
| *1600年 | （安土桃山時代・慶長5年） | 関ヶ原の戦い |
| *1871年 | （明治4年） | 廃藩置県 |
| *1876年 | （明治9年） | 道を国道 県道 里道に分ける |
| *1891年 | （明治24年） | ビール工場が出来る |
| | | 濃尾大震災 ヨーロッパ風の近代化へ 富国強兵へ |